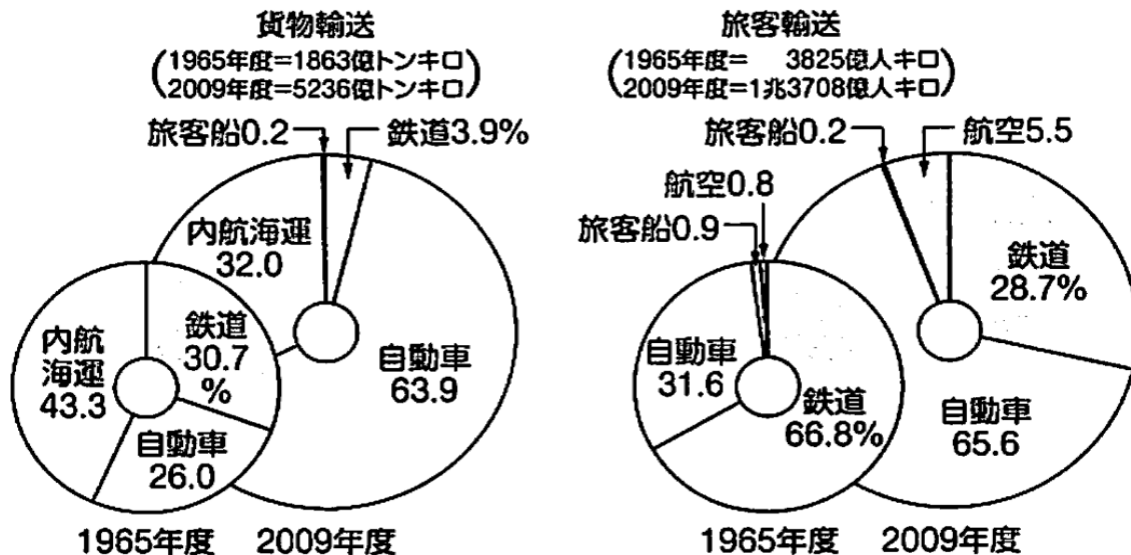


○今回のポイント

日本の交通

国内輸送

●国内輸送の割合の変化



内訳の合計が100%になるように調整していない。1965年度の貨物輸送は国内航空(割合は0.01%)を含む。
【日本国勢図会 2012/13】による

1960年代の状況…鉄鋼業や石油化学工業などの[①]が工業の中心
⇒原材料や製品の重量・面積が大きいため、安価に大量輸送できる[②]・船舶が利用!

1970年代の状況…石油ショックにより重厚長大から[③]へ(機械工業)
⇒部品が小さいため、輸送に[④]が利用されるようになる。
☆ 高速自動車道路の整備やトラックの高性能化なども要因の一つ
※旅客輸送でも鉄道は66.8%から28.7%に減少したが、先進国に比べると多い。大都市圏での通勤通学と新幹線の利用が多いためである。

乗用車の100世帯あたりの保有台数

- (1)100世帯あたりの乗用車保有台数が少ない都道府県…[⑤]・大阪・神奈川・京都など
・[⑥]が発達し鉄道輸送が中心。渋滞や駐車場不足の問題。単身者が多いので割合も低い。
- (2)100世帯あたりの乗用車保有台数が多い都道府県…福井、富山、[⑦]など。
・公共交通機関が貧弱。乗用車への依存が大きい。
・過疎地域 ⇒ 人口減少やモータリゼーションにより公共交通機関衰退。高齢者が陸の孤島化。

日本の貿易

日本の貿易の特徴

○輸出品の変遷

- ・第二次世界大戦以前～1960年代前半…綿織物、衣類などの〔⑧〕
- ・高度経済成長期～…鉄鋼、船舶、電気機械、自動車など〔⑨〕工業製品
- ・石油ショック～…産業のハイテク化。集積回路やコンピュータなどの〔⑩〕製品

○輸入品の変遷

- ・従来…〔⑪〕の割合が高く、原油が最大の輸入品目。
- ・現在…〔⑫〕が最大の輸入品目。
⇒製造業の生産拠点の海外移転が進み、中国や東南アジアなどで低賃金労働力を利用して組み立てられた電気機械などの輸入が増加したため。

○日本の貿易相手国

- ※従来はアメリカがトップであったが、中国が〔⑬〕年に輸出入総額で上回るようになる。
- ・輸出品…工業製品生産のための部品や原材料、〔⑭〕(「製品を作るための機械」を、より効率的に稼働させるための機械)
- ・輸入品…コンピュータや〔⑮〕などの機械類。衣類。

●日本の相手先別貿易 (2010年)

	輸出			輸入	
	百万ドル	%		百万ドル	%
中国	149,626	19.4	中国	153,369	22.1
アメリカ合衆国	120,483	15.6	アメリカ合衆国	69,027	9.9
韓国	62,270	8.1	オーストラリア	45,188	6.5
台湾	52,395	6.8	サウジアラビア	35,879	5.2
香港	42,303	5.5	アラブ首長国連邦	29,276	4.2
計	771,720	100.0	計	694,028	100.0

【日本国勢図会 2012/13】による

日本の港別貿易額

○成田国際空港

- ・輸出額、輸入額共に最大。集積回路などの〔⑯〕な工業製品が輸出入品目共に上位。

○名古屋港、横浜港

- ・自動車工業が発達。輸出品目の1位は〔⑰〕。

○東京港、大阪港

- ・輸入品目の上位に魚介類や肉類などの〔⑱〕。

○千葉港

- ・鉄鋼業や〔⑲〕が発達。輸入品目の上位は原油や石炭などの原燃料。

FTA、EPA、TPP

○FTA (Free Trade Agreement [⑳])

- ・特定の国、地域間で関税や数量制限などを相互に撤廃して貿易を活発に行う。

○EPA (Economic Partnership Agreement [㉑])

- ・FTAにとどまらず、投資環境、人的交流などより幅広い経済関係の構築を目的とする。

例)〔㉒〕 (Trans-Pacific Strategic Economic Partnership Agreement)

⇒シンガポール、ブルネイ、チリ、ニュージーランドの4か国で発効した経済連携協定(EPA)。2015年までにすべての貿易の関税を削減しゼロにすることが約束されている。